



川崎中ロータリークラブ会報

KAWASAKI NAKA ROTARYCLUB / FOUNDED 1972.7.15

【2022-23 年度 地区方針】 「ロータリーの再生」 —新たな挑戦—

会 長 島 利夫 副 会 長 富岡 昭一 幹 事 川口 禮敬 S A A 片岡 英之 会報委員長 叶野 聡	2022～2023 第 2378 例会 2023 年 4 月 11 日	例会日 毎週火曜日 12 時 30 分点鐘 例会場 川崎市中原区小杉町 3-10 ホテル精養軒 TEL(044)711-8855 事務所 川崎市中原区小杉町 3-428 山協ビル 402 号 TEL(044)722- 4331 FAX(044)722-6334 E-mail: k-naka@galaxy.ocn.ne.jp URL: https://www.kawanaka-rc.com
---	---	--

例 会 報 告

開会点鐘	島 利夫会長
司 会	片岡 英之 会場監督
合 唱	ロータリーソング 「奉仕の理想」

クラブソング「拓け未来へ 広げる友の輪」

お客様紹介 原 敏之親睦活動委員

南塚 信吾様 千葉大学・法政大学名誉教授・世界史
研究所長

有賀 友彦様 株タウンニュース社 川崎支社
支社長 兼 中原区編集室編集長

瀬戸 遼太郎様 司法修習生

今後のプログラム予定

4 月 5 月	プログラム
4 月 25 日	休 会
5 月 2 日	休 会
5 月 9 日	会員お祝い 卓話 伊藤 菊代様 理事役員会

出 席 報 告

佐川陽子出席副委員長

会員数	出席数	欠席数	出席率	前々回訂正出席率
41 名	28 名	13 名	77.78%	77.78%

41 名	28 名	13 名	77.78%	欠 3 名		
		対象外		対象外	MU0 名	97.44%
		(5)		(2)		

【本日の欠席者】 三木 治一会員 稲富 正行会員
堀一 慶明会員 朝倉 和信会員 大友 徹会員
渡邊 新二会員 長谷川俊雄会員 市川 宏 会員
齊藤かおり会員 奥村 香 会員 白井 正男会員
小島 徹 会員 内藤 幸彦会員

ニコニココーナー

片岡 英之 会場監督

島 利夫会長:おだやかな春ですね。南塚先生、今日
もよろしくお願ひします。世界に平和が訪
れますように。

富岡 昭一副会長:南塚信吾先生、先週に続き「世界
史の中の日本」その 2“満州事変から第 2
次世界大戦まで”の卓話よろしくお願ひし
ます。

金子 利昭会員:世界史研究所長、南塚信吾様本日
の卓話よろしくお願ひ致します。

合計	3 件	3,000 円
累計	385 件	531,500 円

会 長 報 告

島 利夫会長

1. 地区より第 2590 地区「ポリオの現状につ
いて」動画のご紹介のお知らせが届いて
おります。詳細は回覧致します。

卓 話

2. 公益財団法人 米山梅吉記念館より春季例祭および賛助会員入会のご案内が届いております。また館報春号 41 が届いております。回覧致します。
3. 地区より「旧東海道クリーンウォーク」参加のお誘いが届いております。日 時:5月 14 日(日)集合 13:00 集合場所:川崎出発班⇒JR 川崎駅 日航ホテル前広場 赤のモニュメント辺り 横浜出発班⇒沢渡中央公園 トイレ近く参加対象:ロータリー人とご家族(中学生以上) 詳細は回覧致します。
4. 川崎市美化運動実施中原支部より令和 5 年度多摩川美化活動の日程のご案内が届いております。日 時:6月 4 日(日) 午前 9 時から 2 時間程度場 所:丸子橋第一広場 内 容:清掃活動中原区民祭実行委員会より令和 4 年度第 44 回中原区民祭事業報告書が届いております。回覧致します。



千葉大学・法政大学名誉教授・世界史研究所長
南塚 信吾様

幹 事 報 告

川口 禮敬幹事

1. 例会変更
川崎鷺沼 4月 19日(水)→ 21日(金)4クラブ合同研修セミナー 15:30～
川崎西 RC 夜間例会に出席 点鐘 18:00 HOTEL ARU KSP 3F
4月 26日(水) 休会
5月 3日(水) 休会
横浜あざみ 4月 12日(水) 通常例会 新横浜グレイスホテル 点鐘 12:30
4月 19日(水) 通常例会 アートフォーラムあざみ野 点鐘 13:15
4月 26日(水) 通常例会 新横浜グレイスホテル 点鐘 12:30
川崎中央 4月 10日(月)→ 13日(木)に変更 夜間親睦移動例会野球観戦 点鐘 17:30 東京ドーム
4月 24日(月) グルメ例会を通常例会に変更
5月 1日(月) 休会
5月 29日(月) 休会
川崎とどろき 4月 24日(月) 休会
2. 会報受理 川崎中原 RC 川崎北 RC 回覧致します。
3. 本日、18 時より被選理事役員会・被選クラブ協議会を開催致します。関係各位のご出席をお願い致します。

川崎中ロータリー・クラブ
世界史の中の日本 その2
2023年4月11日

満州事変から第二次世界大戦まで

南塚信吾
(千葉大学・法政大学名誉教授)

どうしてもあのような戦争に突き進んだのか。

- だれかとても悪い人(勢力)がいて、企んで戦争をしたのか。そして、どこかで計算違いをしたのか。
- 戦争をしようという人と、してはいけないという人が対立していて、戦争派が勝ったのか。
- だれも戦争をしようとは思っていなかったのに、戦争になってしまったのか。
- 戦争をしてはダメだという人はだれもいなかったのではないのか。

昭和恐慌 1930—31年



1. 世界恐慌と日本

- 世界恐慌の影響
 - 1929年10月、アメリカで恐慌
 - 1930年春には日本に波及
 - ・生糸や絹製品の輸出激減、貿易赤字、金の流出
 - ・昭和恐慌→倒産、賃下げ、失業、農産物価格下落、飢えや身売り、小作争議
- 軍人や右翼の間では、軍部政権によって、危機の打開をはかる者が出る。

- 中国: 蒋介石の国民政府軍、「北伐」日本の満州支配の危機
- 日本の「山東出兵」(1927~29年) 1928年 閻東軍、張作霖爆殺
- 満鉄の経営不振: 世界恐慌の影響
- 軍部 閻東軍:「満蒙」=「日本の生命線」論 満蒙を中国から切り離すべし。
- ソ連は国内問題に忙殺: 農業集団化(1929-32年)とそれをめぐる党内闘争-「粛清」
- アメリカは国内の恐慌対策に忙殺



「世界史の窓」

2. 満州事変から盧溝橋事件まで 1931年9月-1936年3月

- 満州事変
 - 1931年9月18日 柳条湖事件
 - 閻東軍参謀石原莞爾ら、奉天郊外の柳条湖で南満州鉄道を爆破
 - これを中国軍の仕業と宣伝
 - 対中開戦-「15年戦争」開始
 - 内閣は「不拡大方針」を決定するも、閻東軍はこれを無視、全満州を制圧
- *以後、軍(陸軍)は政府の意向を無視、新聞も国民も強硬路線を支持

- 「満洲国」
- 1932年2月 中国国民政府は日本の侵略として国際連盟に提訴
- リットン調査団
- 3月 「満洲国」建国宣言
- 首都 長春(→新京)
- 満洲、内モンゴル、熱河省
- 清朝最後の皇帝溥儀を執政に
- ・日・朝・漢・滿 蒙の「五族協和」のローガン

5・15事件

- 1932年 5・15事件
 - 青年将校ら、首相官邸、警視庁など襲撃 大森敦首相暗殺
 - 世界恐慌のもとで一般の困窮に陥った農民・失業者の問題を解決しない政府への不満。国家改造運動
 - 海軍青年将校と陸軍士官学校生によるが、軍としての組織的なものではない。
 - *この後、「非常時」を理由に、挙国一致内閣、政党内閣制の終わり。
 - 政府を脅かし、軍の存在感増大。

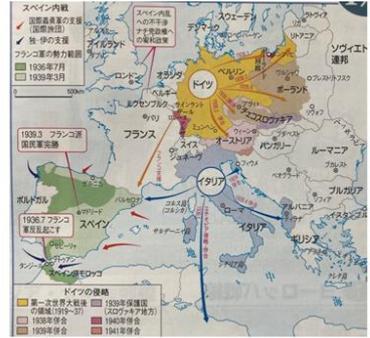
- 孤立する日本
- 1932年9月 日満議定書 日本、満洲国承認 (強硬派の勝利:成功事例)
- 10月 リットン報告書
- 1933年2月 国際連盟臨時総会 満洲国不承認
- 3月 日本、国際連盟脱退
- 松岡洋右
- *国際連盟の無力を露呈
- *国際的に孤立する日本

2・26事件

- *ナチス政権の成立(1933年)を見て、親ナチの統制派が強化
- 国家社会主義
- 陸軍内統制派
 - ・天皇を中心とした国民の精神的統合により「昭和維新」を旨とする進歩派:北進論(対・露)
 - ・合法的に国家改造を目指す統制派:親ナチ派:南進論

- 1936年2月 2・26事件
- 陸軍皇道派青年将校のクーデター
- 永田町・憲法閣一帯を占領
- 高橋是清首相、斎藤実内大臣ら殺害
- 「昭和維新」を掲げ、天皇親政を目指すも、天皇の選断で融れ、「反政」として鎮圧
- クーデター未遂
- 2・26事件後の日本
- 軍の政府への介入
- 天皇の利用
- 独伊への傾斜:国家社会主義
- 共産党員の「転向」

ファシスト勢力の拡大



帝国書院『エスカリエより』

3. 中国侵攻から欧州大戦勃発まで 1937年7月-1939年9月

- *エチオピア侵攻(1935-36年)、ラインラント進駐(1936年3月)、スペイン内戦(1936年-39年)を見て、日本も中国(華北五省)へ進駐
- 日中戦争
- 1937年7月7日 盧溝橋事件
- 近衛内閣 日中戦争開始(宣戦なし。予想外の長期化) 8月 上海事変 南京襲撃
- 9月 国共合作(抗日民族統一戦線)
- 11月 日独防共協定
- 11月 南京攻略作戦
- 12月8日-13日 南京事件

- 1938年1月 近衛首相声明 「国民政府を対手とせず」
- 4月 国家総動員法
- 11月 近衛首相「東亜新秩序」宣言
- 1939年5月 重慶無差別爆撃
- *米英ソの支援を受ける中国と全面戦争 「援蒋ルート」
- 1939年5月-9月 ノモンハン戦争
- 満洲国軍とソ連軍モンゴル人民共和国軍による日ソ代理戦争 日本軍の敗戦

日中戦争



第二次上海事変 1937年8月

4. 欧州大戦勃発から独ソ開戦まで 1939年8月-1941年6月

- 独ソ不可侵条約
- 1939年8月23日 相互の不可侵(戦争をしない)
- 秘密議定書:ポーランド分割、バルト三国をソ連に
- *ソ連はアジアでの日本に備えるため、ドイツは英の進出を警戒し、東を安心させて、西に備えるため。
- 1939年8月28日 平沼内閣総辞職 「欧州情勢は複雑怪奇」

- 第二次世界大戦開始
- 1939年9月1日 ドイツ、ポーランド侵襲開始
- 9月3日 英仏、対独宣戦
- 9月17日 ソ連、ポーランド侵襲
- これを見て、日本は「南進」
- ・阿部信行内閣、米内光政内閣
- ドイツとの軍事同盟に消極的、欧州大戦に不介入

「大東亜共栄圏」論

- 1940年6月 近衛文磨 新体制運動
- このころから「大東亜共栄圏」論
- *欧米に代わって日本がアジアの盟主になって、共存共栄の経済圏を作る。
- 7月 第二次近衛内閣
- 9月 「南進」決定
- 9月 日独伊三国同盟
- 10月 大政翼賛会発会 政党禁止
- 1941年4月 日ソ中立条約
- 日本の開戦、ソ連の対独戦のため(独ソ不可侵条約が前提;ノモンハンの和約)

- 《朝鮮》
- 1939年10月 朝鮮人の強制連行始まる
- 12月 朝鮮人への創氏改名
- 《中国》
- 1940年3月 南京に王精衛の中華民国国民政府
- 8-12月 中国、八路军、日本軍攻撃
- 《インドシナ》
- 1940年9月 日本軍、北部インドシナ進駐「南進」
- 「援蒋ルート」の遮断

1940年7月

左から
 近衛文麿(首相)
 松岡洋右(外務大臣)
 吉田善五(海軍大臣)
 東条英機(陸軍大臣)



5. 独ソ戦から太平洋戦争開始まで
 1941年6月—1941年12月

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1941年 | 11月26日 ハル・ノート |
| 6月22日 独ソ開戦 | 中国・仏印からの無条件即時撤退; 日米両国の資産凍結解除など |
| 7月28日 日本軍 南部仏印進駐 | 12月1日 御前会議 対米英蘭開戦決定 |
| 7月 米 日本資産を凍結 | 12月8日 真珠湾攻撃 対米英宣戦布告 |
| 8月 米 対日石油全面禁輸 | 12月8日 米 対日宣戦 |
| *対英米と決定的対立 | 12月10日 マレー攻撃 |
| 9月6日 御前会議「帝国国策遂行要領」決定 | 12月11日 独伊 対米宣戦 |
| 10月18日 東条英機内閣 | |

太平洋戦争



東京書籍

どうしてあのような戦争に突き進んだのか。

- 軍部(特に陸軍)の独走を政府が押さえられなかった。
- 天皇の指導性
- 既成事実の積み重ねの歴史
- 日清・日露時代の「リアリズム」の消滅
- 「与えられた現実(たいてい、いかに点をとっていくか)が中心
- ドイツの勝利を予測していた。日独伊三国同盟
- ソ連が英米に協力しないと予測していた。三国同盟+ソ連
- アメリカの強硬な姿勢を読み違った。
- 中国の国民の抵抗力を計算できなかった。